

小田原市で防衛講話を実施



自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 大谷三穂 1等海佐）は、11月22日（金）、小田原市の報徳会館において「さがみ信用金庫小田原信和会」の参加者28名に対し、「日本近海の情勢について」というテーマで防衛講話を実施しました。

大谷本部長が講師となり、はじめに最初に自衛隊神奈川地方協力本部について紹介した後、自衛隊の任務や活動について説明を行いました。続いて、防衛大学の女子1期生として始まった本部長自身の自衛隊生活をヒストリー仕立てで振り返りながら講話を進めました。

講話では、海上自衛隊での艦隊勤務や海幕人事計画課での勤務において、女性として、また管理職として働き続けることが厳しい時期もあったことなどの実体験に基づく話があり、「言うだけでなく、実際に行動することを継続することで信頼を得てきた」、「責任の重さは、やりがいに比例する」という力強い言葉に参加者はうなずきながら熱心に聴いていました。

講話終了後には、「女性初のイージス艦艦長としての勤務など、様々な経験をされていたからこそこの言葉と感じ、感動しました」、「海洋国家日本にとって、海の安全保障を実現することがいかに重要か理解でき、日本人として誇らしく感じた」などの感想が寄せられました。

神奈川地方協力本部は、これからも協力団体に對する講話など、あらゆる機会を積極的に活用し、自衛隊の活動についての理解を深めていただくよう努めていきます。



「ビッグレスキューかながわ2024」に自衛隊ブースを出展

11月23日（土）、神奈川県総合防災センター・消防学校（厚木市下津古久）において「令和6年ビッグレスキューかながわ・かながわ防災フェア2024」が実施され、神奈川県、厚木市、国土交通省、気象庁、警察・消防、医療関係機関、陸上自衛隊、海上自衛隊などの公共機関、ボランティア団体や企業の他、在日米軍も一堂に会し、各工種にて実践的な総合防災訓練が行われました。

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 大谷三穂1等海佐）も会場に自衛隊ブースを設置し、陸上自衛隊東部方面混成団と連携して災害派遣の写真パネルや個人装備品などの展示を行いました。来場者は自衛官が背負う「背のこ」（迷彩柄のリュック）の重さ（約20kg）に驚き、個人装備品を手にとって「どのように使うのか」と質問していました。

「非常用糧食」（自衛官が災害派遣の際などに食べるレトルトご飯）にも興味を示し「一番美味しい味はどれか」など様々な質問が飛び交い、自衛隊の災害派遣への関心の高さがうかがえました。

私たち自衛隊地方協力本部の任務の一つとして、災害発生時には自治体と連携し被害に関する初動の情報収集に協力し、対処する実働部隊と行政機関とをつなぐという役割があります。神奈川地方協力本部も日頃から地域の防災訓練等に参加し、いざという時に備え、自治体等との連携強化に努めて参ります。

